

～海外派遣者からのレポート～

2007年4月 中国吉林省東北師範大学派遣者 北村裕司

私が鳥取県庁に入り、約9年が経ちました。

気が付くと、入庁当時に感じた、仕事を行う上での素直な驚きや感覚を忘れ、「役所の常識」に固まった人間になっていました。

中国に滞在する一年間は、異なる文化、環境に身を置き、自分なりに発見したことを伝えることで、自分の中につくられた常識の打破、自分自身の国際理解、そして、改めて、日本の社会、文化を見つめ直す機会になれば良いなと思っています。

あわせて、このホームページを読んでいただく方に、少しでも国際理解の向上に役立てていただけたら幸いです。

「生涯学習のひとつに中国語を」

次の言葉の意味はわかりますか？

A「活力門」 B「迷你裙」

(1) クラスの概況

私のクラスの話をしてします。

現在、東北師範大学留学生部漢語研修生です。

クラスには、韓国人、アルジェリア(1名)、イラク(1名)、イエメン(1名)、そして日本人(2名) 大多数は、韓国人です。

全体25人くらいで、年齢層は、19歳くらいから40歳。

昨今の日本の大学事情はよく知りませんが、こちらでは、授業中帽子をかぶっていたり、携帯電話がなかったりと、若者のマナー低下を感じる次第です。

文化の違いなのか、先生達は、何も言いません。

控えめな日本の私は、残念ながら、何も言えません。

(2) 外国人が中国語を学ぶ

日本人にとっての中国語を学ぶ第一関門は、やはり発音。

勉強したことない人に、「発音難しいだろ？」など、人ごとのように言われると、ムっとします。

ただ、日本人としての最大のメリットは、漢字を使っていたこと。

漢字を意味として理解できるため、筆読が可能です。

日本人にとって、発音は、最大の壁ですが、韓国人にとっても、大きな壁のようです。

中国語は、韓国語によく似た発音が多く、単語一音一音の発音は、日本人より上手らしい。

しかし、イントネーション(声調、4声と言われている)が、うまくできていない人が多い。

なお、私は、授業中、彼らが発言する中国語は、聴かないようにしています。

また、アラブ系の人たちは、やはり、漢字の問題が最難関。彼らの話を聞くと、我々のように漢字を意味として理解することが難しいようです。

アラビア文字は、いわゆる表音文字(文字が音だけを表し意味を表さないもので、平仮名やアルファベットなど)で、漢字自体に意味を持つ感覚に慣れていないとのことでした。

(3) 中国人が外国語を学ぶ

先日、中国語の参考書を探すため、本屋さんに行きました。

やはり、本屋には、英語関係の本が圧倒的に多かった。

日本同様中国でも、教育システムの中に英語学習があり、高校や大学では授業として取り入れられています。

また、日本同様裕福な家庭では、幼いうちから英語教育をさせているようです。

私がよく行くスーパー前の英語学校に、外車に乗った親御さんがお子様を学校へ送り出しているのをよく見ます。

しかし、中国人は、全く英語を話してくれません。

私が知っている限り、本大学で国際政治学を専攻している友人しか英語で話してくれません。

その辺り、日本と似ているかも知れません。

その次は、やはり日本語です。

これだけの経済発展をしている中国は、日本のお得意様であり、中国にとっても日本はお得意様です。

特に、中国南部の方では、日本企業の進出が多く、日本語ができれば、メシが食えると噂を聞きました。

実際、長春の語学学校で先生から聞いた話では、日本語専攻の学生が一番多い。

その語学学校は、大学ではなく、専門学校のようなところで、英語と韓国語も教えています。

大学などの高等教育でなく、いわゆる手に職を付ける形なら、英語よりも、直接的な需要がある日本語専攻が多いようです。

(4) 日本人が中国語を学ぶということ

A「活力門(hu ò lì mén)」 B「迷你裙 (mín ĭ qún)」

Aは、「ライブドア」の中国語表記です。

ちなみに発音を無理矢理カタカナ表記にすると「フォリイメン」で、「ホリエモン」に似ています。

Bは、ミニスカートです。カタカナ表記は、「ミニチュイン」。漢字の意味は、「你(あなた)を迷わせる裙(スカート)」です。

誰が考えたのかは知りませんが、興味深い例です。

日本には、漢字文化があります。

漢字は表意文字(意味を表す文字)です。

このお陰で、授業が分からない時は、書いてもらったら分かることがたくさんあります。

今の私にとって、漢字を輸入した古代日本、輸出した中国に非常に感謝です。

明治維新、日本の先人達は、西洋からたくさんを学びました。

その際、その学んだことを、漢字表記しました。

「憲法」「民主主義」「経済」などは、西洋の概念を翻訳する際に日本人が考案した漢語らしい。

日本人は「読み、書き、そろばん」が出来たため、いち早く西洋文明を理解する事が出来、その結果、アジア諸国の中で一番早く近代化できたという説を読みました。

ちなみに、近年は、日本人のもう一つの言語文化、仮名文字により、様々な文化を取り入れ、少々混乱している気がします。

明治時代のようにもう少し思慮深く西洋文化を取り入れたら、奇妙な欧米化?は、避けられたのではないかと思います。

話が飛びましたが、これからは、中国語を勉強するのがお得ではないかなあ、ということです。

幸い、我々は、漢字文化を残し、現在に至っています。

これは、ラテン語から、派生する英語やドイツ語と同じ感覚ではないかなあ?

日本の漢字文化のお陰で、西洋人が中国語を学ぶよりも、圧倒的に基礎知識量が多いです。

このメリット使わないのは、もったいない。

確かに日本語と中国語では、文法は全然違いますが、日本人は、英語を勉強しているため、文法構造が違う言葉も、勉強すれば、どうにかなると思うのです。

また、我々日本人は、漢詩を読み、中国の大地を想像しながら、理解することが出来ます。

意識して読むと漢詩は、本当に状況が浮かんできます。

非常に趣があります。

これは、西洋人、若しくは、漢字文化を持たない文化では大変難しい。

良くも悪くも、日本は、中国と隣り合わせ。

これだけの経済発展をしている中国は、日本のお得意様でもあります。

また、現在の少子化が進む限り、今後日本は、外国人人口が増えて行くことを現実として受け止める必要があります。

そうなれば、たくさんの中国人が来ることは、間違いありません。

その際、相手を理解するためのツールとして、また、お互いの良いところ、また、及ばないところを補うツールとして、片言の中国語が喋れることは、大きなプラスになるでしょう。

私は、この1カ月の経験として、生涯学習で中国語を学ぶことをお勧めします。

決して小学生から中国語を学べとは言いませんが、学ぶことを趣味とする人たちにとっては、すばらしい材料だと思います。

ただし、最初に発音だけは、しっかりとマスターしてからです。

間違った発音でどれだけ単語量を増やしても、いわゆる、死語（自分で言った意味と違う意味で中国人に理解される）が増えていくだけで、もったいない。

後で矯正しようとしても難しいらしいですから。

参考文献 加藤徹著「漢文の素養 - 誰が日本文化をつくったのか」